

アステラス製薬の 事業概要と成長戦略 ～持続的な成長に向けて～



2017年9月

アステラス製薬株式会社（証券コード:4503）

広報部 IRグループリーダー 大久保 伸

この資料に記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述及びその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知及び未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。様々な要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化及び関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品及び既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、この資料に含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

本日の内容

I アステラスの概要

IV アステラスの目指す姿と
成長戦略

II 製薬産業の概要

V 計数情報と株主還元

III ビジネスの現況

会社概要

資本金

1,030億円 (2017年3月期)

連結売上高

1兆3,117億円 (2017年3月期)

医療用医薬品売上高

国内 3位 (2016年度)*

世界 20位 (2016年度)**

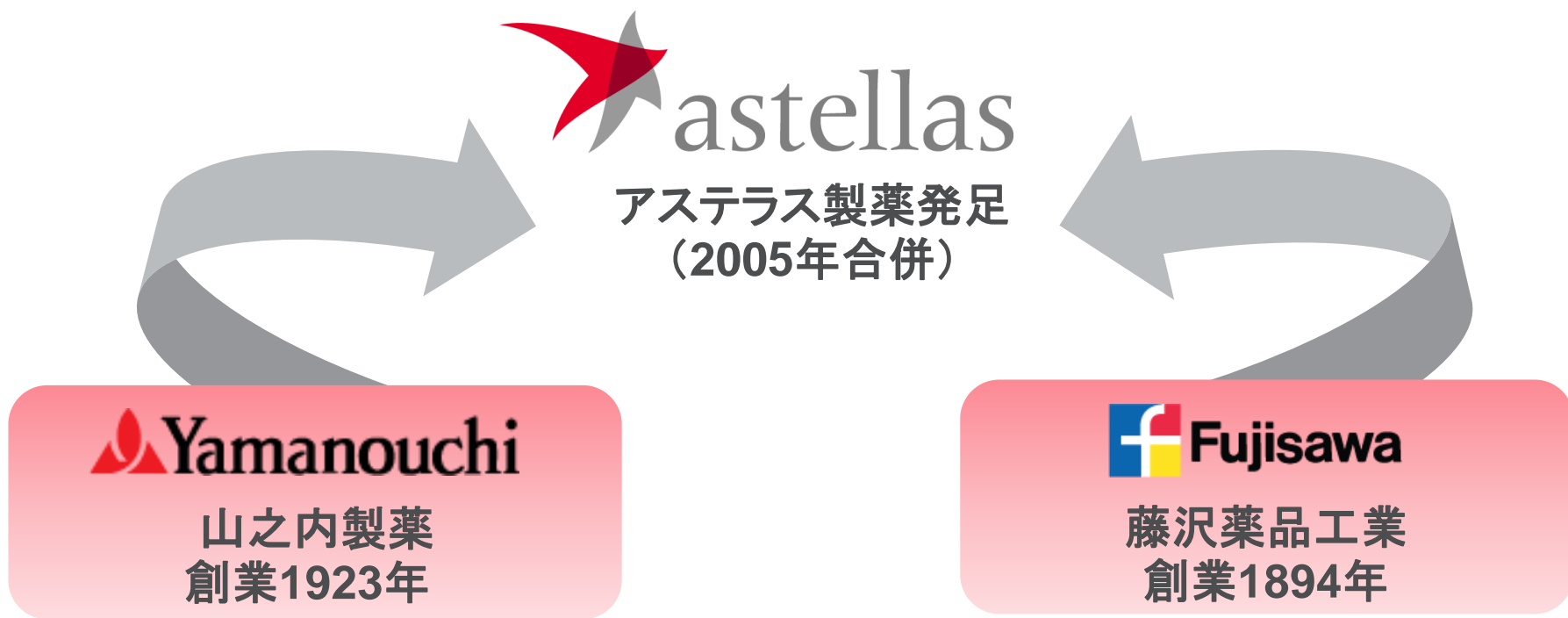


本社：東京都中央区



アステラスの誕生

存在意義：先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する
使命：企業価値の持続的向上



本日の内容

I

アステラスの概要

IV

アステラスの目指す姿と
成長戦略

II

製薬産業の概要

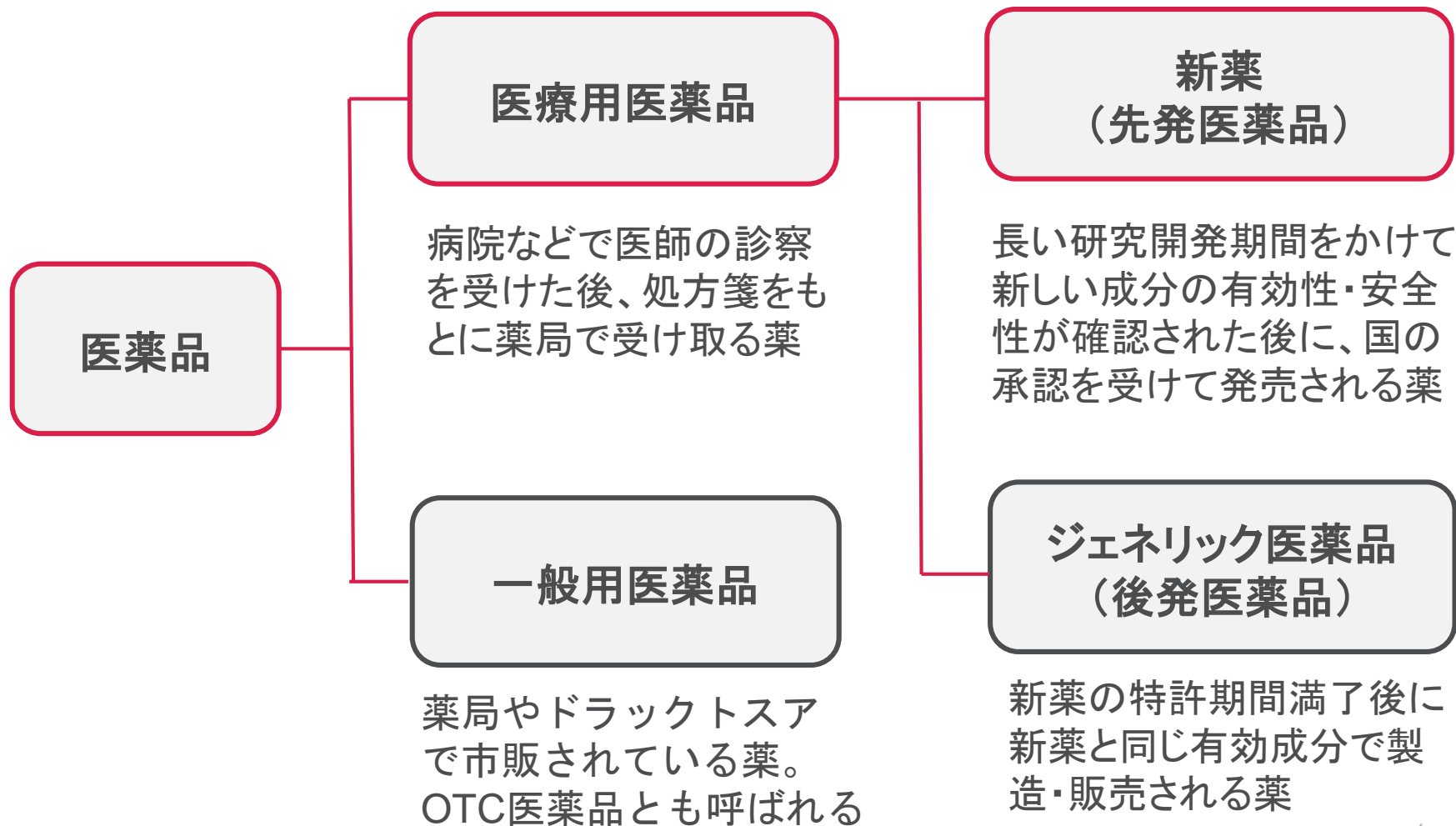
V

計数情報と株主還元

III

ビジネスの現況

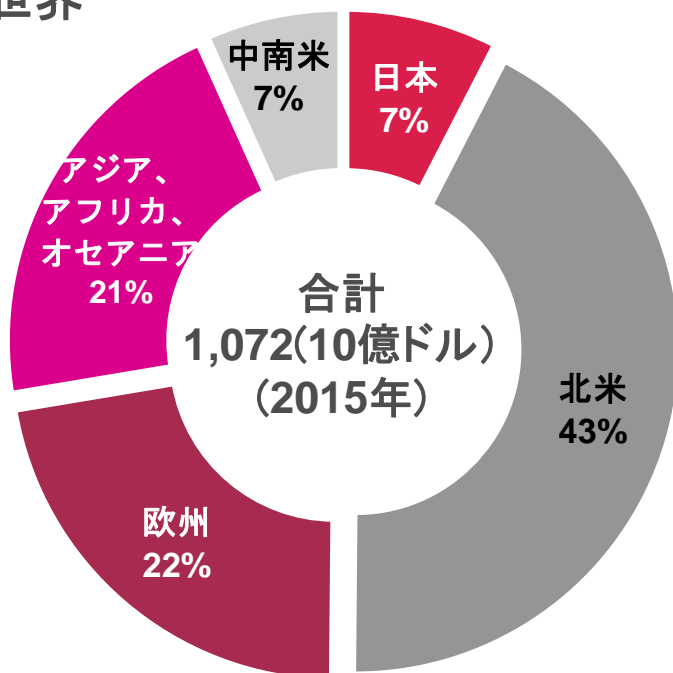
医薬品の分類



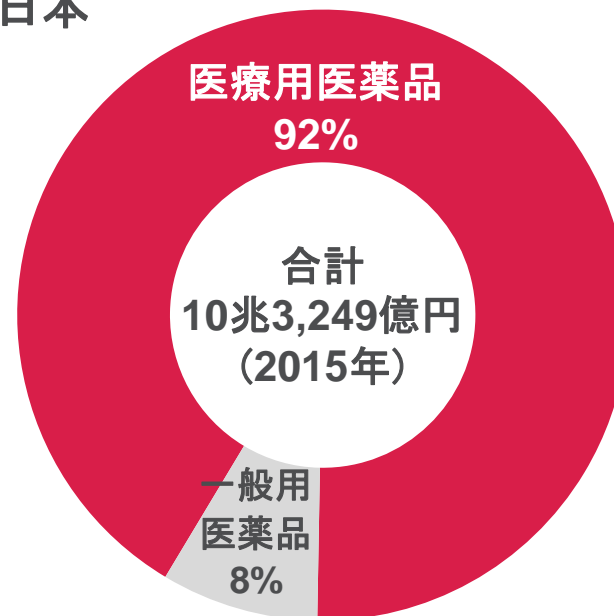
医薬品市場の推移

世界の市場は100兆円超、日本市場は9割以上が医療用医薬品

世界



日本



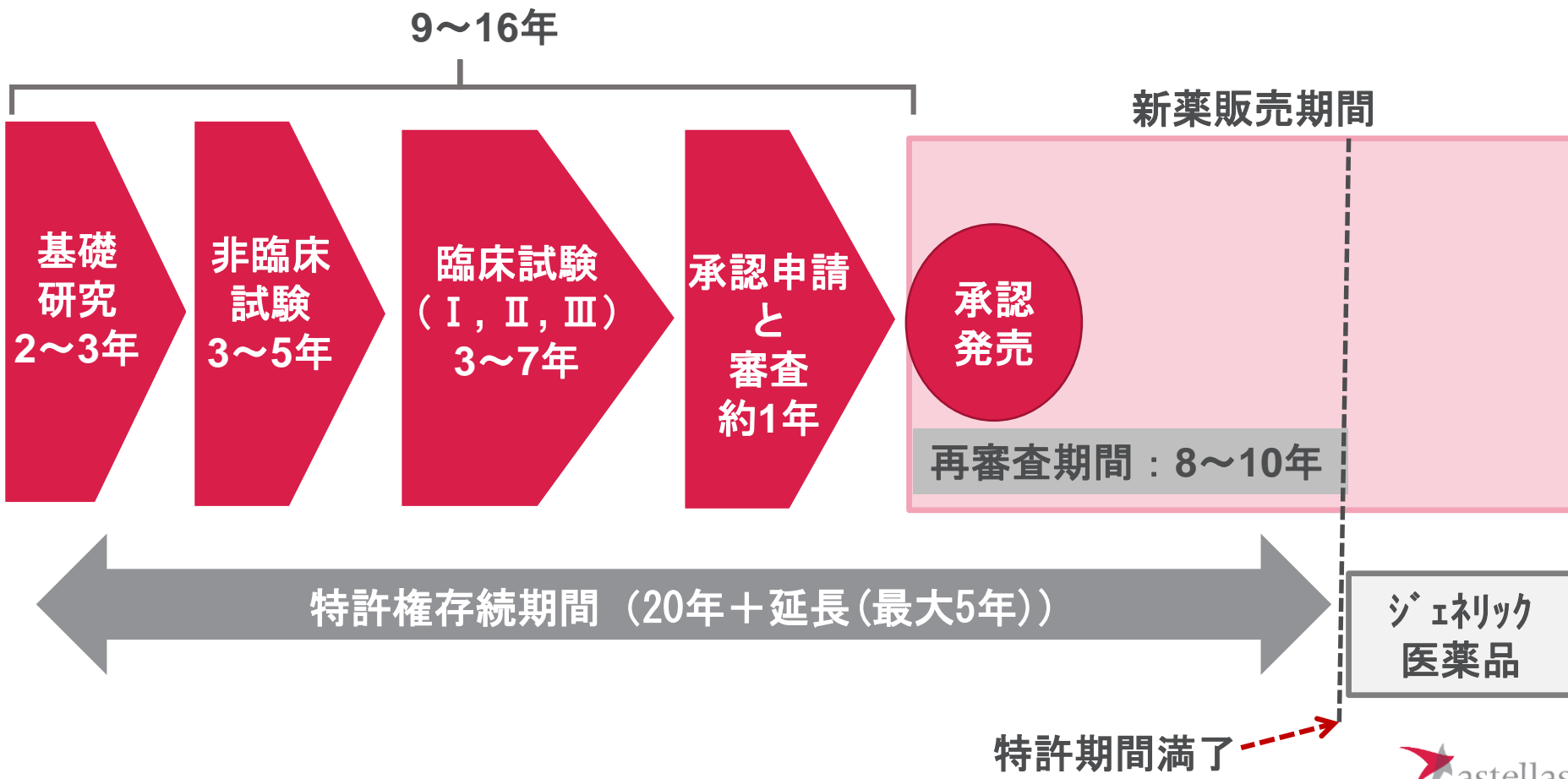
医療用医薬品: 処方箋が必要な薬

一般用医薬品: 薬局やドラッグストアで購入して服用できる薬



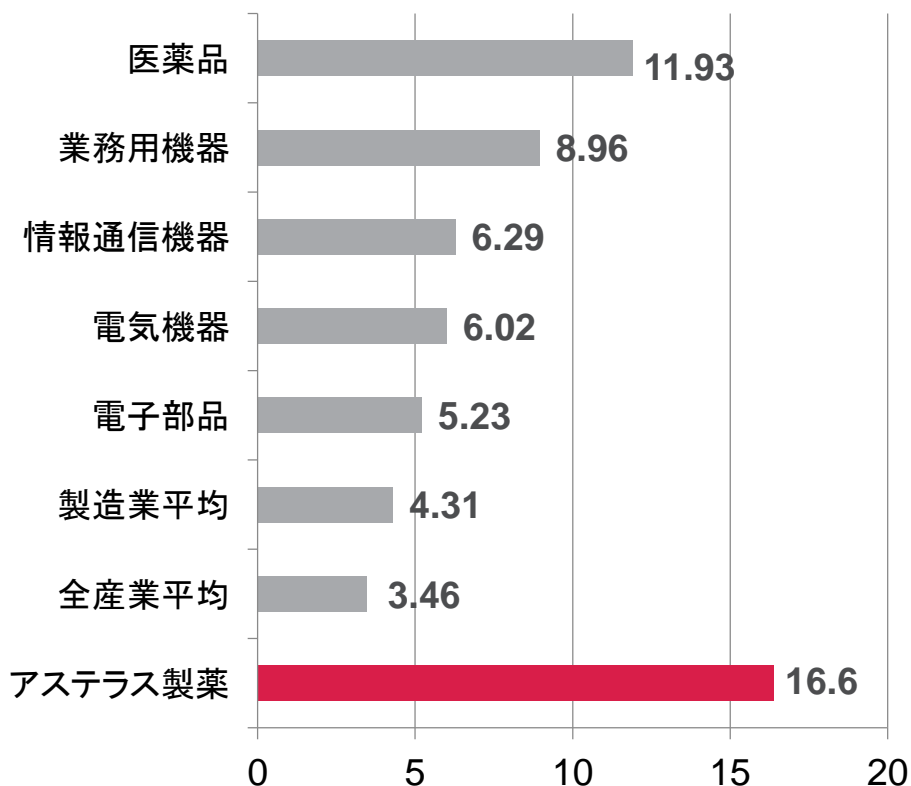
新薬が届けられるまでの道のり

患者さんに届けられるまでには9~16年が必要

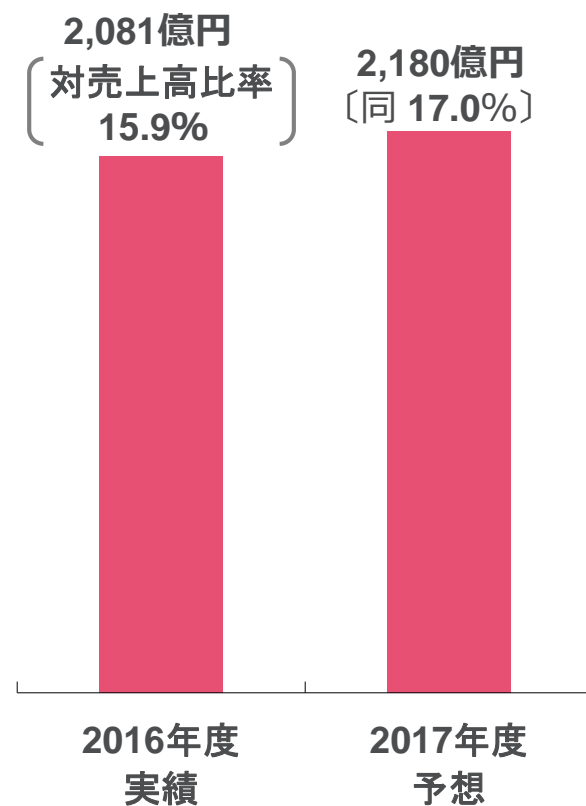


製薬産業は高水準の研究開発投資を継続

各産業の研究開発費比率

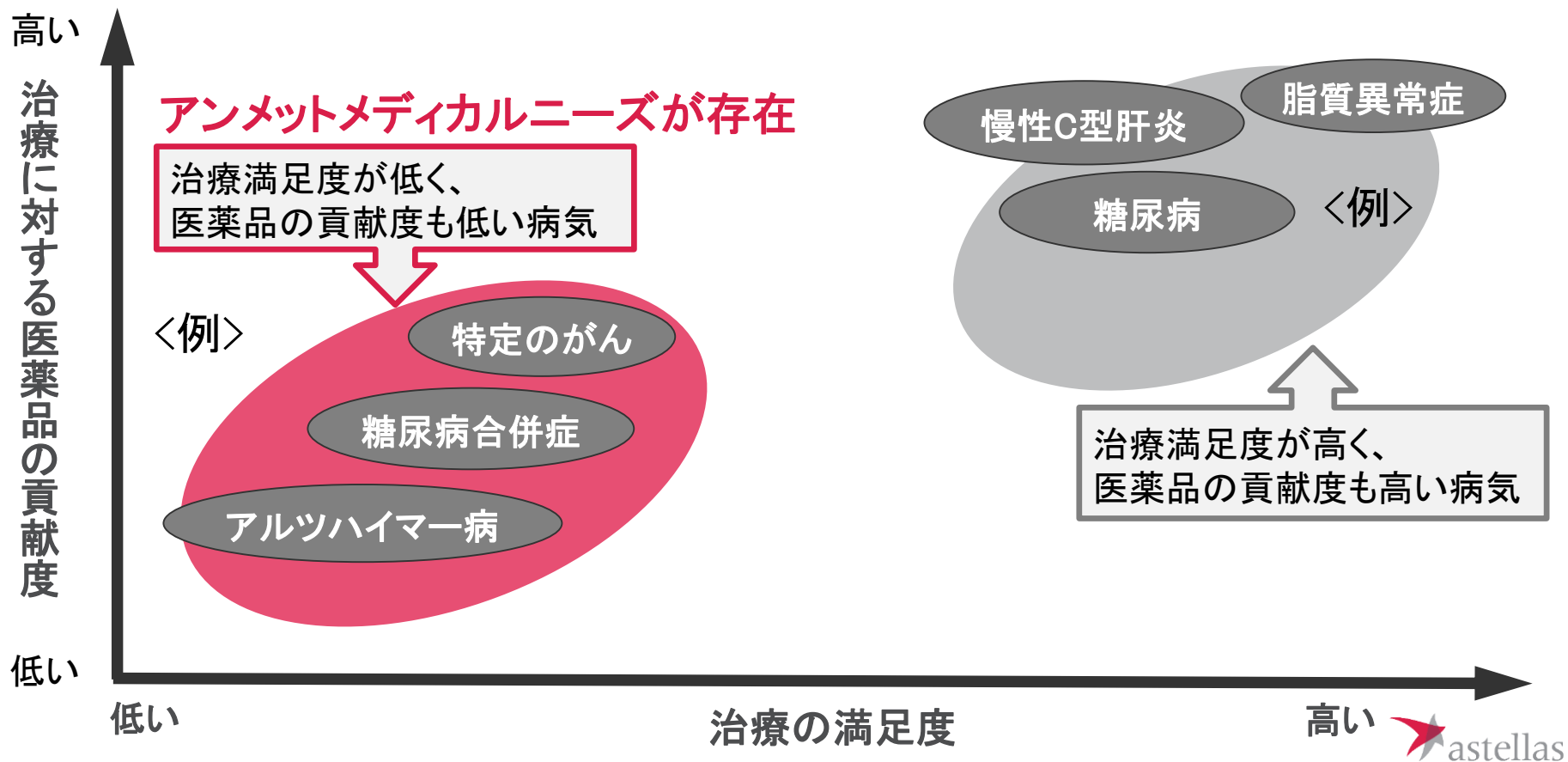


当社の研究開発費と対売上高比率



満たされていない医療ニーズ (アンメットメディカルニーズ)

現在の治療法や医薬品では十分に治療上の満足度を
充足していない病気が多数存在する



本日の内容

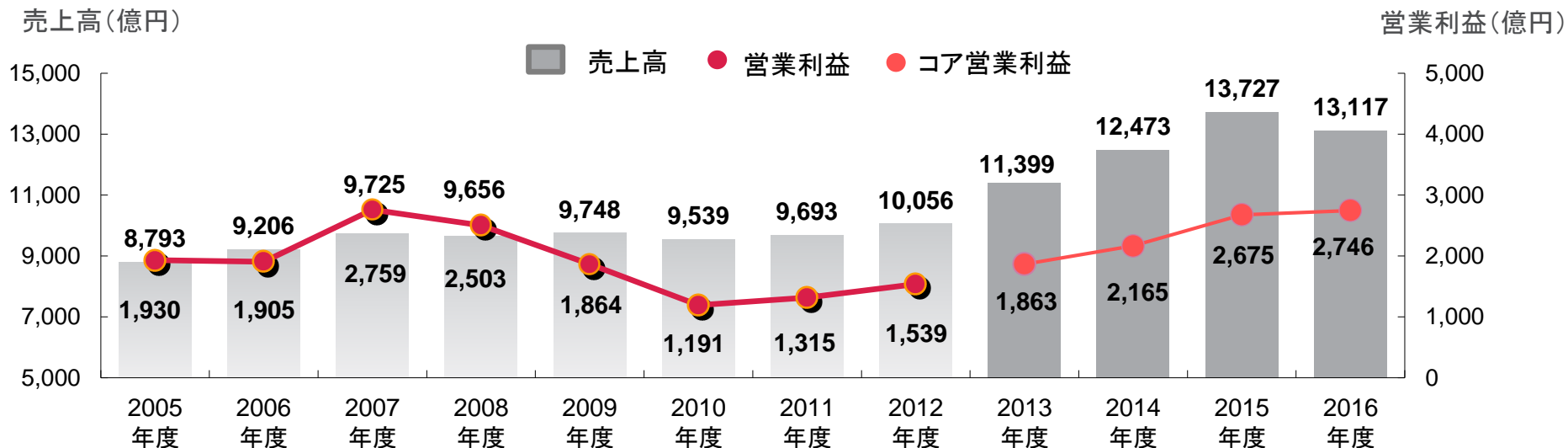
12

- I アステラスの概要
- II 製薬産業の概要
- III **ビジネスの現況**
- IV アステラスの目指す姿と成長戦略
- V 計数情報と株主還元

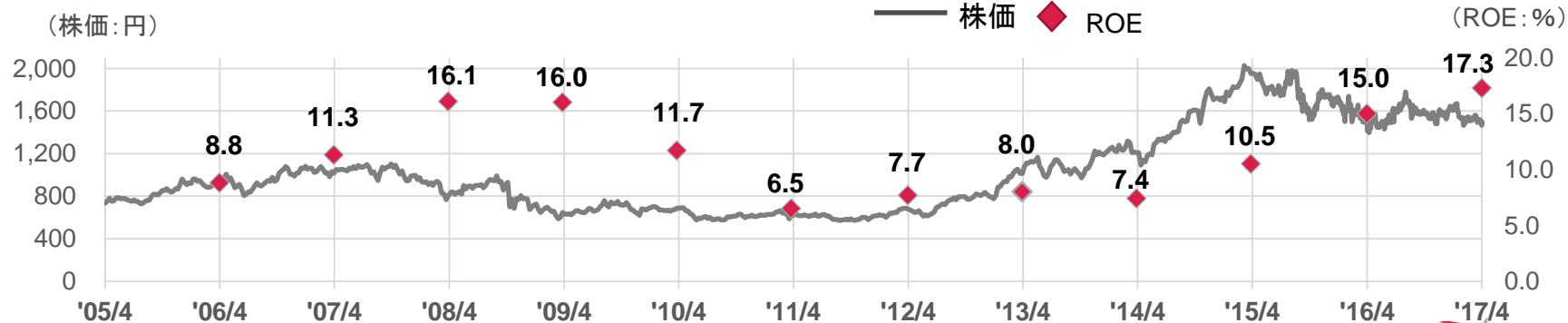
アステラスの歩み(業績の推移)

業績の推移

[注]2005年度から2012年度は日本基準。2013年度以降は国際会計基準(IFRS)



株価、ROEの推移



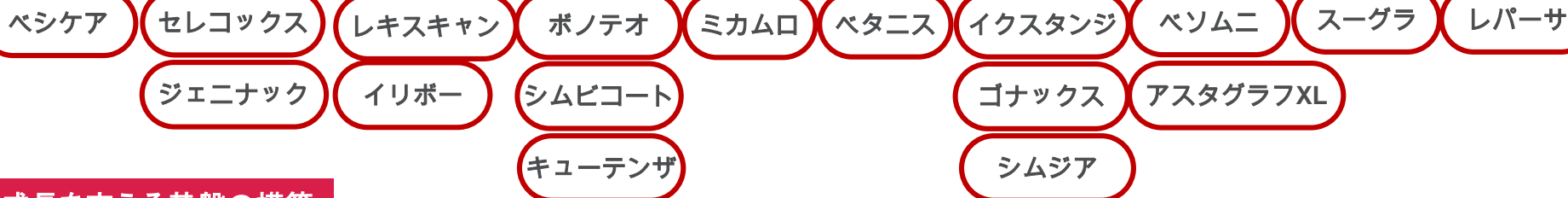
[注]当社は、2014年4月1日を効力発生日として普通株式1株を5株に分割する株式分割を実施。
2005年4月～2014年3月の株価は株式分割後ベースに引き直して表示。

合併後10年間の歩み(選択と集中の歴史)

2005年

2016年

主な新発売



成長を支える基盤の構築

がんを重点研究領域に
設定

抗体医薬の強化と
がん領域の事業基盤確立

研究体制の改革

アムジェン社との日本に
おける戦略的提携

経営資源配分の最適化

新薬ビジネスに
経営資源を集中
(一般用医薬品事業の売却)

生産拠点の最適化

自社発酵研究からの撤退

米国の研究所の閉鎖・
縮小

富士工場の
日医工(株)への承継

国内グループ共通業務の
アウトソーシング

グローバル皮膚科事業の
レオファーマ社への譲渡

がん領域フランチाइズの強化

他社からの導入による
新薬候補の充実

イクスタンジ
前立腺がん等

ゴナックス
前立腺がん

ガニメド ファーマシューティカルズ社買収
(2017年1月) IMAB362 第2相臨床開発

ゴナックス発売 売上高
(2012年日本) 45億円(2016年度)

イクスタンジ発売 売上高
(2012年米国~) 2,521億円(2016年度)

OSIファーマシューティカルズ社買収
(2010年6月)
➢ 米国でのがん事業基盤確立 売上高
➢ 抗がん剤タルセバの獲得 352億円(2016年度)

アジェンシス社買収 (2007年12月)
➢ 抗体医薬の研究開発を強化 enfortumab 第2相臨床開発

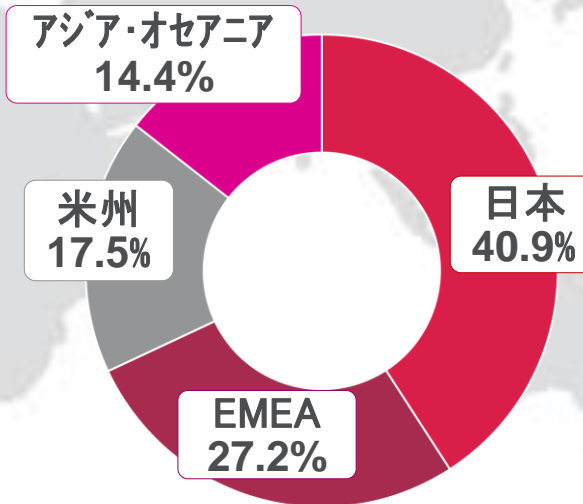
2006年 重点領域に設定

自社研究体制の整備・強化

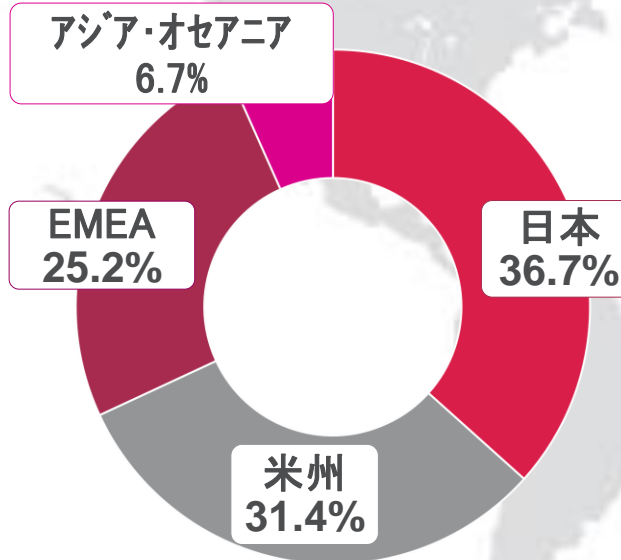
グローバル事業展開

世界50か国以上で自社販売
日本、米州、EMEA、アジア・オセアニアの4極でバランス良く展開

従業員の構成（2017年3月末）



2016年度地域別売上高

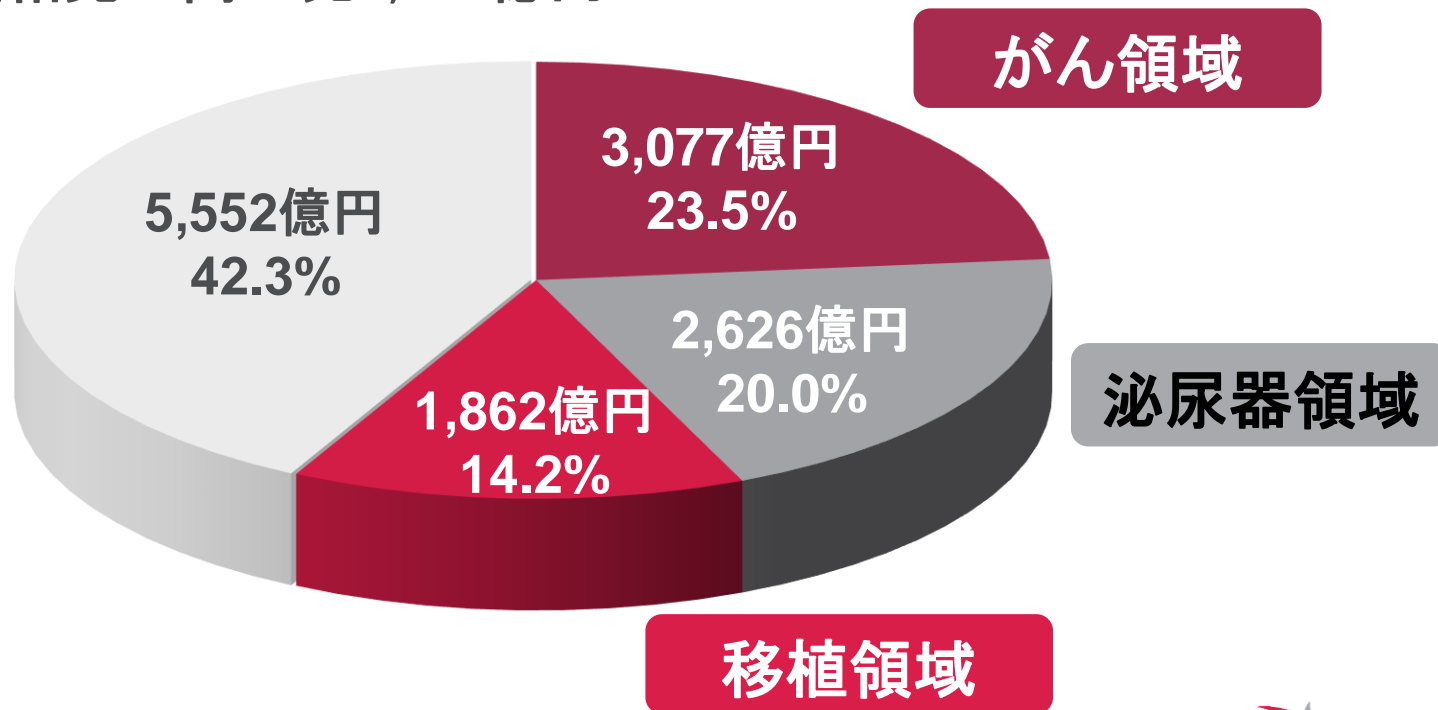


米州:北米及び中・南米
EMEA:欧州・中東・アフリカ

主要領域の売上高

主要3領域で50%強
がん・泌尿器領域が成長をけん引

2016年度連結売上高:1兆3,117億円



アステラスの主力製品・新製品

免疫抑制剤 プログラフ

臓器移植における拒絶反応の抑制などに使われる薬剤



過活動膀胱治療剤 ベシケア、ベタニス

過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿および切迫性尿失禁の治療に用いられる薬剤



前立腺肥大症の排尿障害改善剤 ハルナール

前立腺肥大症に伴う排尿障害の治療に用いられる薬剤



前立腺がん治療剤 イクスタンジ

前立腺がんの治療に用いられる薬剤



2型糖尿病治療剤 スーグラ

SGLT2阻害剤として日本で初めて承認を取得した2型糖尿病治療剤



高コレステロール血症治療剤 レパーサ*

家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症の治療に用いられる薬剤 **



 astellas

* 保険診療における本剤の使用については、厚生労働省保険局医療課長通知（保医発0331第9号平成29年3月31日）により留意事項が付されています。

** 心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る

本日の内容

19

I

アステラスの概要

IV

アステラスの目指す姿と
成長戦略

II

製薬産業の概要

V

計数情報と株主還元

III

ビジネスの現況

■ 経営理念

アステラスの存在意義
先端・信頼の医薬で、
世界の人々の健康に貢献する

アステラスの使命
企業価値の持続的向上

■ VISION

変化する医療の最先端に立ち、
科学の進歩を患者さんの価値に変える

事業環境の変化にしなやかに対応し、3つの戦略を着実に推進

製品価値の最大化

- がん領域(イクスタンジ)、過活動膀胱(ベシケア、ベタニス)フランチャイズを着実に育成し、価値の最大化を図る

イノベーションの創出

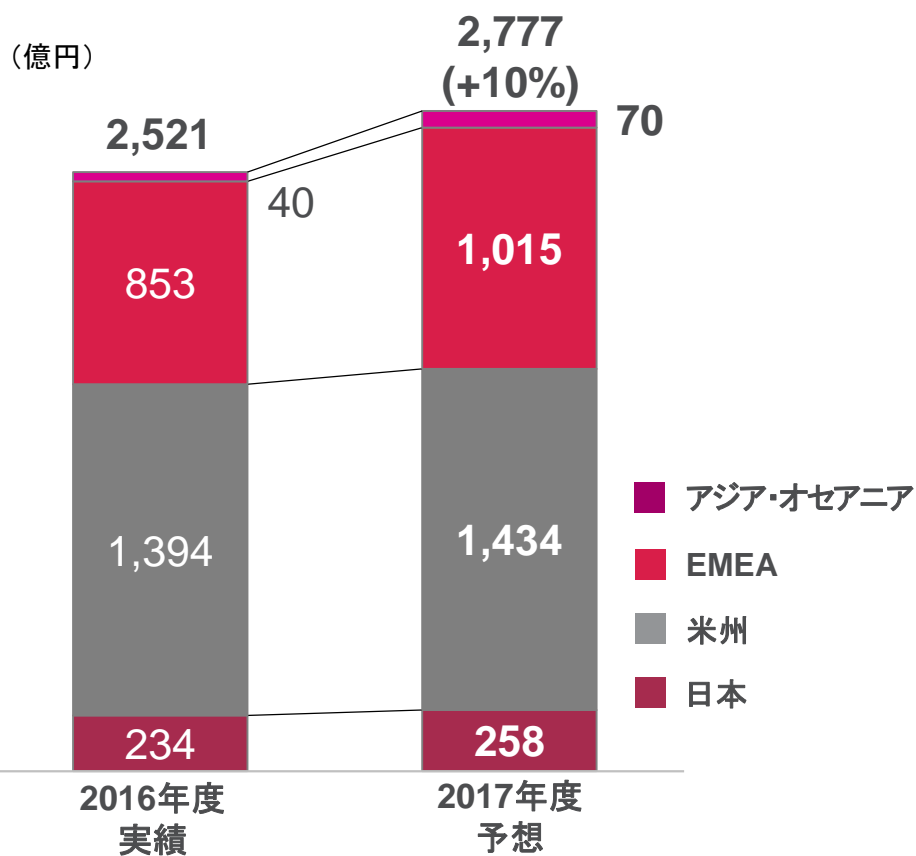
- 成長の源泉であるイノベーション創出のために、積極的な研究開発投資を継続
- 新薬創出力の強化を図るとともに、新たな機会にも積極的に挑戦する

Operational Excellenceの追求

- 経営資源配分の最適化、組織・機能の見直し等を通じ、事業運営基盤の一層の高質化・効率化を推進

XTANDI/イクスタンジ

化学療法前の転移性去勢抵抗性前立腺がんで一層の浸透を目指す

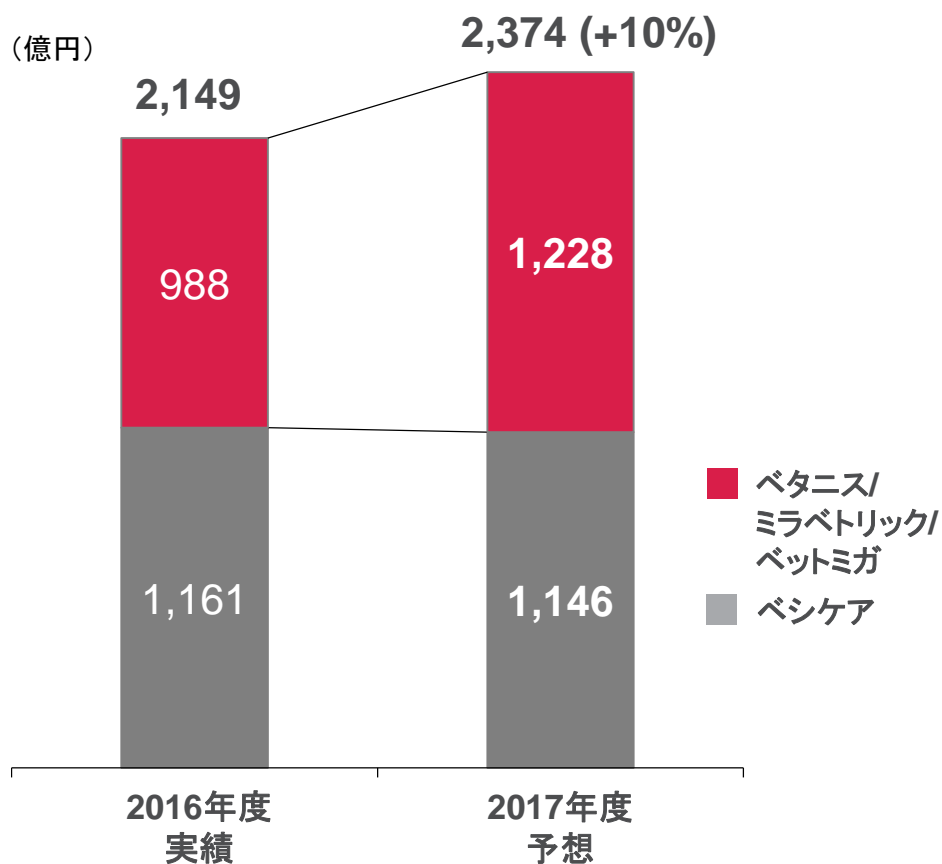


前立腺がん治療剤 **XTANDI/イクスタンジ**

- より早期の患者層への浸透
- 地域の拡大を目指す

泌尿器OABフランチイズ

ベタニス/ミラベトリック/ベツミガの成長によるフランチイズの強化



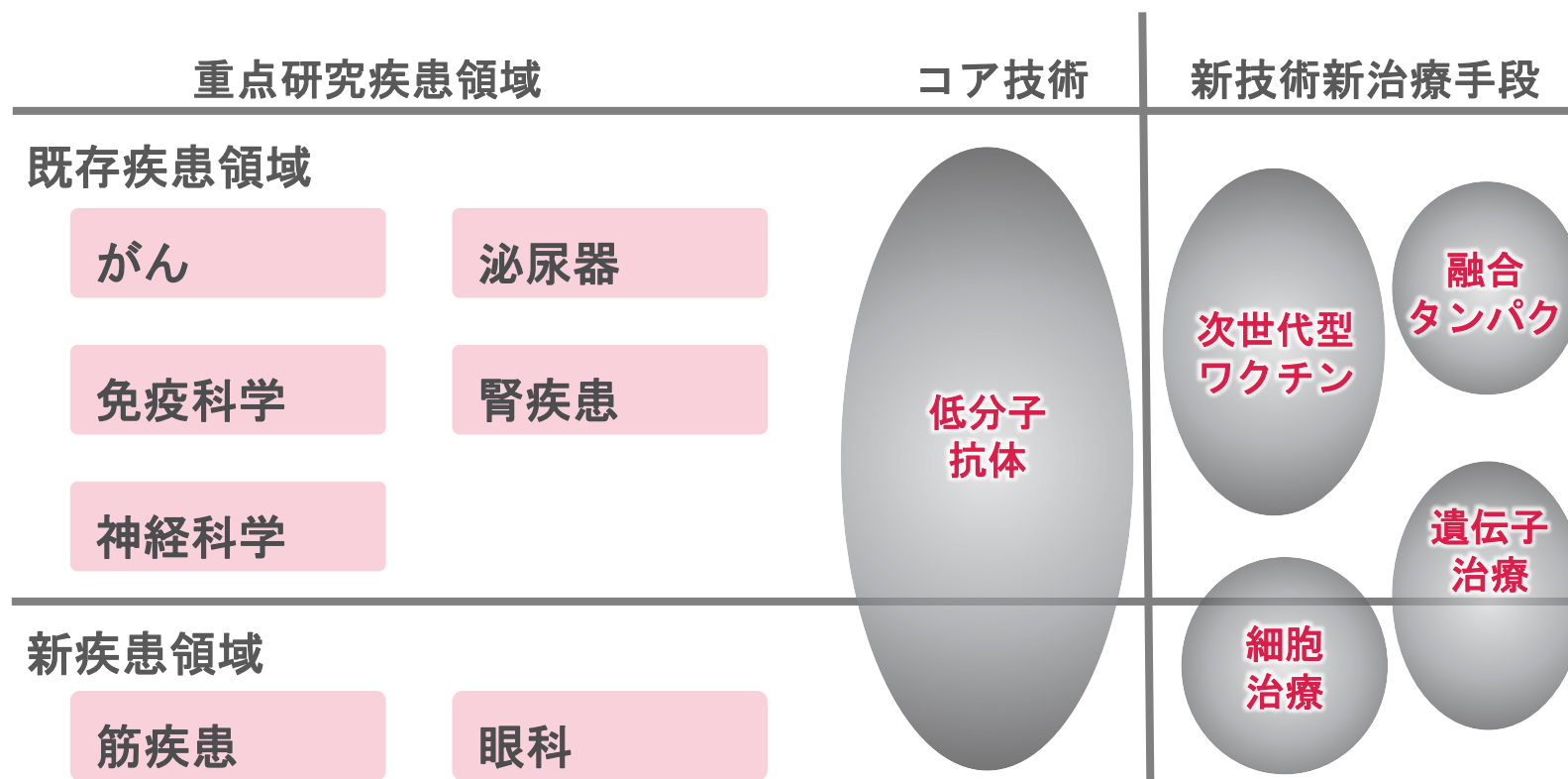
過活動膀胱治療剤
ベタニス/ミラベトリック/ベツミガ



過活動膀胱治療剤
ベシケア

追求すべき機会

患者さんに革新的な価値を提供する機会が存在する



ネットワーク型研究体制（2017年7月現在）

ネットワーク型研究体制による先端科学の取り込み



外部機会の獲得

新領域・新技術への挑戦と新薬候補群の拡充



次世代型ワクチン



細胞医療の基盤強化



がんフランチャイズ強化



ユニークな後期開発品の獲得

新薬の開発状況 (2017年7月現在)

第1相試験

- ASG-15ME
- AGS67E
- ASP4132
- AGS62P1
- ASP6282
- ASP8302
- ASP7398
- ASP7713
- ASP4345
- ASP0892
- ASP1807/CC8464
- ASP6981
- MA-0211

第2相試験

- エンザルタミド[®](肝細胞がん)
- AGS-16C3F (腎細胞がん)
- プリナツモマブ(AMG 103)
(急性リンパ性白血病、日)
- enfortumab vedotin
(ASG-22ME)(尿路上皮がん)
- IMAB362(胃食道がん)
- YM311/FG-2216 (腎性貧血)
- ASP8232 (糖尿病性腎症)
- ASP6294
(膀胱痛症候群/間質性膀胱炎)
- bleselumab (ASKP1240)
(rFSGS)
- ペフィシチニブ (ASP015K)
(関節リウマチ、米欧)
- ASP7962 (変形性関節症)
- ASP8062 (線維筋痛症)
- ASP0819 (線維筋痛症)
- ASP4070 (スギ花粉症、日本)
- ASP1707 (関節リウマチ等)
- ASP5094 (関節リウマチ)
- fezolinetant (ESN364)
(更年期に伴う血管運動神経症状)
- CK-2127107 (SMA、COPD、ALS)
- ASP7317 (RPE細胞プログラム)
(萎縮型加齢黄斑変性等)

第3相試験

- エンザルタミド
(M0 CRPC, M0 BCR: 米欧亜、
M1 HSPC: 米欧日亜)
- デガレリクス (3か月製剤、日)
- ギルテリチニブ (ASP2215)
(AML、米欧日亜)
- ミラベグロン
(小児神経因性膀胱、欧)
- ロキサデュスタット
(ASP1517/FG-4592)
(慢性腎臓病に伴う貧血、欧日)
- ペフィシチニブ(ASP015K)
(関節リウマチ、日亜)
- ASP0113/VCL-CB01
(HCT時CMV感染抑制、米欧日)
- フィダキソマイシン
(感染性腸炎: 日、小児: 欧)
- イプラグリフロジン
(1型糖尿病、日)
- リナクロチド(慢性便秘症、日)

申請

- エンザルタミド
(錠剤、欧日)
- ソリフェナシン
(小児神経因性膀胱、米欧)
- ソリフェナシン/
ミラベグロン
(併用療法、米)
- タクロリムス
(小児用顆粒製剤、米)
- ロモソズマブ(AMG 785)
(骨粗鬆症、日)
- イプラグリフロジン/
シタグリプチン
(配合剤、日)

疾患領域:

- がん
- 泌尿器、腎疾患
- 免疫科学、神経科学
- その他
- 新規分子/細胞成分

期待している製品・開発品

多くの新薬候補が今後の成長をけん引



2型糖尿病治療剤

現在の成長製品

ソリフェナシン/
ミラベグロン
(過活動膀胱 併用療法)

エボロクマブ
(心血管アウトカム試験)

リナクロチド
(慢性便秘症)

ロモソズマブ
(骨粗鬆症)

短期的に
貢献し始めることを期待
(申請済又は2017年度に申請予定)

ギルテリチニブ (急性骨髄性白血病)

エンザルタミド
(前立腺がん 追加適応)

enfortumab vedotin (尿路上皮がん)

IMAB362 (胃食道接合部腺がん)

ロキサデュスタット (慢性腎臓病に伴う貧血)

ASP0113
(造血細胞移植時のサイトメガロウイルス感染抑制)

ペフィシチニブ (関節リウマチ)

fezolinetant
(更年期に伴う血管運動神経症状)

中期的な貢献を期待
(2018年度以降)



本日の内容

29

I

アステラスの概要

IV

アステラスの目指す姿と
成長戦略

II

製薬産業の概要

V

計数情報と株主還元

III

ビジネスの現況

経営指標（経営計画2015-2017）

成長のための研究開発投資を継続しながら、営業利益率の一層の向上を目指す

ROE

15%以上
本経営計画期間以降も
この水準の維持・向上に取り組む

売上高	年平均成長率(%)は1桁台半ば
コア営業利益	売上を上回る年平均成長率
研究開発費	対売上高 17%以上
コアEPS	コア営業利益を上回る年平均成長率
DOE	6%以上

2017年度 業績予想 (2017年4月27日発表)

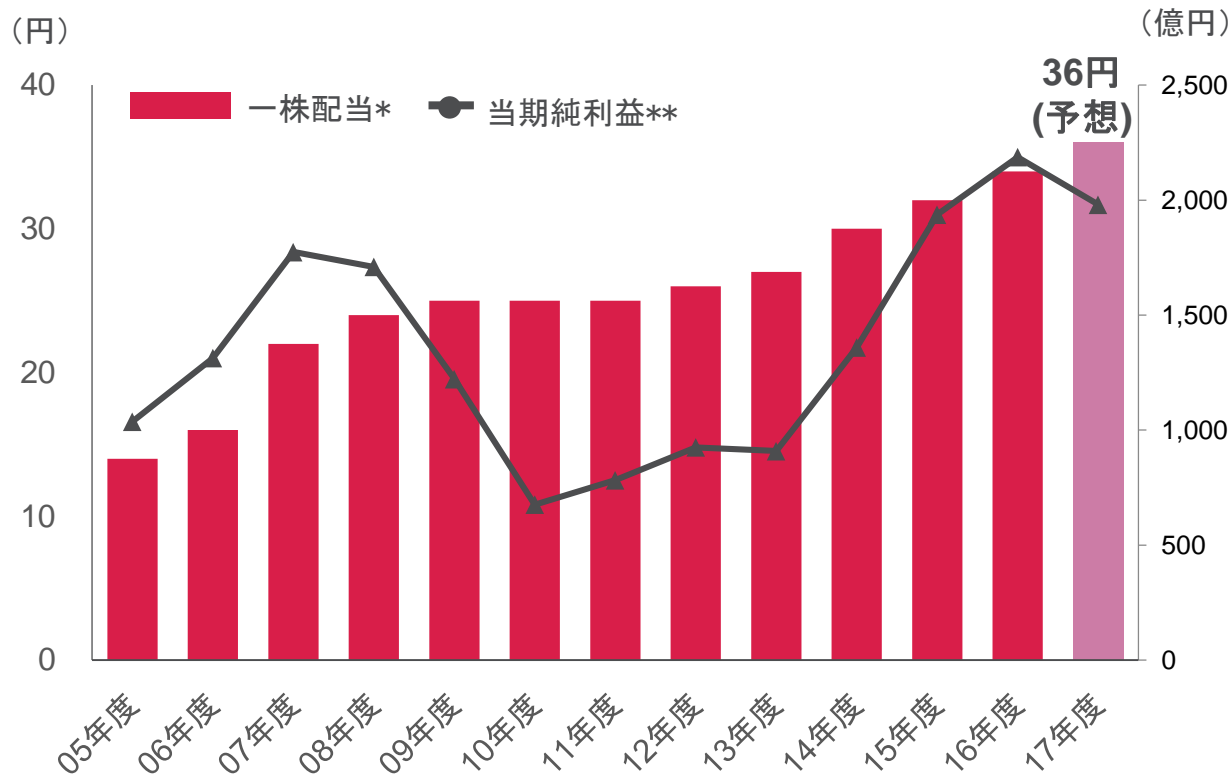
(国際会計基準(IFRS)コアベース)

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	増減率
売上高	13,117	12,790	-2.5%
研究開発費 売上高比率	2,081 15.9%	2,180 17.0%	+4.7%
コア営業利益	2,746	2,540	-7.5%
コア当期純利益	2,133	1,950	-8.6%
1株当たりコア当期純利益 (円)	101.15	94.43	-6.6%
【為替レート】	2016年度 実績	2017年度 予想	変動
ドル:期中平均	108円	110円	2円安
ユーロ:期中平均	119円	120円	1円安

利益配分等に関する方針

- 成長を実現するための事業投資を最優先
- 中長期的な利益成長に基づく安定的かつ持続的な配当水準の向上
- 機動的な自己株式取得の実施



自己株式の取得状況 (直近3年)

	総額 (取得株数)
2016年度	914億円 (6,000万株)
2015年度	1,192億円 (6,800万株)
2014年度	582億円 (3,831万株)

変化する医療の最先端に立ち、
科学の進歩を患者さんの価値に変える